



# 第51号

2005年(平成17年)3月4日  
 発行: 鎌ヶ谷市国際交流協会  
 〒273-0195 鎌ヶ谷市初富928-744  
 TEL 047-445-1141 (内550)  
 FAX 047-441-9400  
 http://www.kifa.gr.jp

## KIFA外国人ボランティアが講師役

# 「世界の食文化」中国伝統の水餃子づくりに西部小6年生たちが挑戦!



講師の張世妃さん

1月25日(火)、西部小学校家庭科の教室で、6年生を対象に社会科「世界の食文化」授業の一環として、中国伝統の水餃子づくりが行われた。講師は日本在住10年になる張世妃さん。KIFAに外国人ボランティアとして登録されており、日本人との触れ合いを大切にする張さんは講師役を快く引き受けてくれた。

この日参加した児童は、なにしろ96人にのぼる。ワイワイ、ガヤガヤと喧しい。まず張さんが見本をみせる。ボウルに強力小麦粉と薄力小麦粉を混ぜ、冷水を徐々に加えて固くこね、餃子の皮づくりを始める。粘土をこねる要領でやればうまくいく。

説明役は大貫秀一先生である。時々「オーイ、静かにしろ」と声をかけると、みな急にシーンと静かになる。そこで先生が材料や器を掲げて説明する。終わるとまたガヤガヤ。そのうちみんなが参加して、それぞれにつくり始めた。

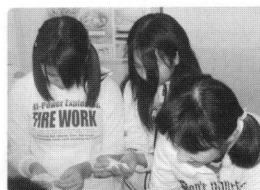
いつも見かける皮の製法は、直径1.5cm程度の棒状にしたものを同程度の長さにしぎり、これを麺棒で円形にして1枚ずつ皮をつくる。しかし、この日の張さんのつくり方は独特なものだった。大きな塊を平たく円形に伸ばし、それを2回たたむ。そして逆さにしたプラスチック製のコップを上から押し付けて円形にくり抜くのだ。こうすると一度に4枚の丸い皮が出来上がるというわけ。

皮づくりを進める一方で、張さんは具づくりは始める。出来た具を各調理台に井上譲二先生が配り、調理方法を説明する。調理台によって進行状況はバラバラだ。皮に具を入れて包むのも、みな初めてだからけっこう難

しい。たくさん具を入れすぎれば、皮からはみ出てしまう。形も大きさもいろいろだ。

男子も女子も、みかけは悪戦苦闘だがとても楽しそうだ。食べてしまえば同じかあ。包み終わると大貫先生の待つ沸騰した鍋に入れる。

2時間弱、みんながんばって自分たちで水餃子をつくり、おいしく食べたようである。この間、張さんの下の息子は、KIFAの会員でもある五十島聖美先生がズーッと抱いて面倒を見てくれたし、まだ3歳に届かないヤンチャな息子は、男の子たちが一緒に遊んでくれた。



がんばってつくった水餃子を食べ、みんなは張さんに感謝。

予定時間を上回る奮闘の末に、中国料理の一つ自分のものにして? みんな満足そうだった。終わりにあたって、男子と女子の児童が1人ずつ張さんにお礼の言葉を述べた。

かわいい息子を抱いた張さんも、嬉しそうに「謝謝、再見!(ありがとう、さようなら)」と答えて、楽しい水餃子づくりのひとつときは終わった。(C.W)

## 2004年度語学研修講座合同閉講式を挙行

### 「今後も勉強を継続してください」

2月11日（金）、2004年度KIFA語学研修講座合同閉講式が、総合福祉保健センターにて行われました。

今年度の語学講座は英語A・英語B・スペイン語・中国語・フレンドリー英会話の5講座、受講生は117名でスタートしました。閉講式は、すでに秋に終了したフレンドリー英会話を除いた4講座の講師・受講生と日本語ボランティア講師が加わり、総勢80余名が一堂に会しました。各講座の受講生たちが成果を発表し、楽しいひとときを過ごしました。

今年度の皆勤賞は、英語Aクラス3名（御幸寿美さん、田中菜穂子さん、原由紀子さん）、中国語2名（穂苺栄次さん、森田紀美子さん）の方々を受賞されました。

受賞者の方々にマイクを向けると、「60年前に過ごした中国が懐かしく思えて……」「子どもに英語を習わせたいので、まず自分が頑張って子どもに手本を示そうと思って……」「主人の海外赴任がきっかけです」「学生時代を思い出して、改めて勉強しました」と、皆さん受講されたきっかけは様々です。“継続は力なり”を実践してくださった、受賞者の皆さんおめでとうございます。

ジャネット・平野先生（英語B）とパトリシア・岡田先生（スペイン語）から講評をいただき、受講生からお礼の言葉とともに花束が手渡されました。残念ながらライアン・ミックニン先生（英語A）、許艶先生（中国語）は、閉講式に出席できませんでしたが、次のようなメッセージが寄せられました。

#### ライアン先生

「毎週、このクラスで教えるのが楽しみでした。皆さんの英語の勉強、そして生活にたくさんの幸運がもたらされるよう、祈っております。今後も熱心に勉強を続けてください」

#### 許先生

「毎土曜日、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごしました。皆さんが一生懸命勉強する姿をみて、嬉しかったです。普段の生活の中でぜひ中国語を使ってみてください」

セレモニーの最後に、KIFAにとってもう一つの大切な語学講座、外国人のための日本語講座が紹介されました。担当者からボランティア講師の紹介とともに、日本語教室の活動への理解と、参加・協力の呼びかけがありました。

（ボランティア講師がローテーションを組んで、毎週火曜日、一年間に40回の講座を行っております）



参加した受講者の皆さん



パトリシア・岡田先生



花束を受けるジャネット・平野先生



皆勤賞の受賞者



閉講式に出席された先生方



日本語講座担当のボランティア講師の皆さん

### 語学講座からボランティア活動へ

\*困っている外国人がいたら、声をかけてくれる人が一人でも多くいたらいいな。

\*在住の外国人のことを、理解しようとしてくれる人が一人でも多くいたらいいな。

\*そんな日本人がたくさんいたら、国と国の間に色々な過去や問題があっても、一人で出来ることは小さくても、彼らにとって日本が少し優しい国になるかもしれない。

それが国際交流、そしてボランティアの第一歩！できるだけ多くの人に、外国語を学ぼうとするきっかけをつくりたい。たくさんの人に、学んだ言葉で外国人と親しくなってほしい。

そして、困っている外国人に声をかけてあげてほしい。こんな思いを抱きながら、現在、2005年度の語学講座を開講する準備を進めています。

そのため、来年度からの語学講座は応募者多数の場合、新規会員を優先とさせていただきます。講座で楽しく学んでいただくのはもちろんですが、語学講座がきっかけで、ボランティアとして活動して下さる方々が、一人でも増えていくことを切に願っております。

(M. H)



# 研修の楽しい思い出をこめて語学講座発表会

## 英語A

『Spring cider through a straw』（『森のくまさん』の原曲）『Yesterday once more』を合唱。

ライアン先生が欠席でも、クラスのコンビネーションはバッチリ！『森のくまさん』の原曲には、会場から手拍子が起こり、会場と舞台が一体となり、楽しませていただきました。ライアン先生に見ていただけなかったのが残念です。



## 英語B

『Take me out to the base-ball game』『Sing A Song』（Sesame Streetより）を合唱。

全員がベースボールCapをかぶり、大リーガーのイチロー選手、松井選手、日本の新庄選手の活躍を英会話で語り、歌へと続けました。

まさに、アメリカの生活・習慣の一端を歌から垣間見たような気がしました。



## スペイン語

『Palo Negro』『Quien sera』の踊り&歌。カラフルな民族衣装をまとい、南米のどこにでもある市場の風景を曲に合わせて再現。『Quien sera』では、ボーカルが歌を熱唱。夏まで代講してくださったラウラ・山本先生も参加して、異国情緒たっぷりでした。



## 中国語

『何日君再来』『夜来香』を合唱。

テレサ・テンさんでおなじみの『夜来香』には、ハーモニーを口ずさむ方もチラホラ。

日本語とは違った中国語の響きにうっとりさせられました。受講生が講座で学んだ感想を中国語で話す場面もあり、授業の成果を披露してくれました。



## 日本語

マツケンサンバの替え歌『日本語サンバ』の歌&ダンス。全員がお手製のポンポンを手に歌いながらダンスを披露。松平健より、ずっと若くてスマートな日本語講座、最年少ボランティアが派手な衣装にちょんまげ姿で大活躍。

「オーレーオレ 日本語サンバ……みんな話すよ うまい日本語 胸にあふれるこのリズム……」  
仕事で出席できない外国人受講生が、多数いたことが残念です。



## 2005年度予定のKIFA語学講座

英語	初級	2クラス	(全30回)
中国語	初心者	1クラス	(全30回)
スペイン語	初心者	1クラス	(全30回)
ハンガール	初心者	1クラス	(全15回)

各クラスの日程・会場・応募方法など詳細については、4月の『広報かまがや』に掲載予定です。

# KIFA活動の改革をめざし合同部会を開催

2月6日（日）、中央公民館において第2回合同部会が岡本会長以下三役、各部部会員18名が出席し開催された。最初に会長の挨拶の後、副会長より前回の合同部会で提案された課題について説明があり、その後KIFAのあり方について討議が開始された。

冒頭、交流部会の外国人会員よりKIFAの行事を行う際に、もっと外国人の意見を取り入れてほしいとの要望があった。続いて新規会員の加入促進、KIFA活動事業のマンネリ化対策と新しい企画の提言、語学講座の内容などについて、予定の時間を大幅に延長し活発な討議がおこなわれた。

(T.T)

## 50号発行記念特集 Part2

## KIFA Plaza で見える国

第21号 1994/7/15	『中学生の国際交流』ワカタネ市から女子学生がホームステイで滞在。学校生活も(鎌中、三中)も体験。	第31号 1997/11/7	『鎌ケ谷市国際交流協会設立10周年記念号』全20頁、一部カラー版。 『鎌ケ谷市国際交流協会とは……』では各部会活動10年のあゆみ、歴代部会長などを紹介。 個別には、広報部会はKIFA Plazaの編集後記を引用して報告。派遣部会は青少年の海外派遣事業のあゆみを写真とともに回顧。研修部会は語学講座と指導講師陣を紹介、また後援やコンサートのイベント事業も紹介。交流部会は写真でつづる10年のあゆみと題して、KIFA PARTY、世界文化交流の料理講習会、バスツアー、夏まつりなど数々の催し事の実績をレポートしている。この第31号は、KIFA設立10年間の活動を知る資料的価値は大きい。
第22号 1994/10/28	『新しいALT(外国語指導助手)を紹介します』(米国オハイオ州出身のマーク・ノーフさん、インタビュー)。 鎌ケ谷市教員海外派遣研修『19日間の貴重な体験』。市内在勤の先生方の体験報告レポート。	第32号 1998/3/25	『鎌ケ谷市、ワカタネ姉妹都市提携調印式 KIFA設立10周年記念合同祝賀パーティ』。調印式に来鎌したワカタネ市民を迎えた『ホストファミリー体験記』。『サヨナラ鎌ケ谷』鎌ケ谷市ALTを9年務めたステイブ・バーグ氏の寄稿。
第23号 1995/3/20	『花いっぱいニュージーランドへ』成人初の海外派遣17人(平均年齢58歳)のKIFA会員の帰国報告。	第33号 1998/7/16	『1998年度鎌ケ谷市国際交流協会開催』新会長に田澤進二郎氏。『中国研修の旅』派遣部会。
第24号 1995/7/19	『1995年度 鎌ケ谷市国際交流協会総会開催』新会長に荒井茂行氏。『テレサさん笑顔で民間外交』ワカタネ市の一男一女のお母さん、テレサ・ギャリカーさんが3カ月のホームステイで来日。 『My Hometown わたしのふるさと』主に鎌ケ谷在住の外国人が語るコラム、スタート。	第34号 1998/10/29	『鎌ケ谷市中学生ワカタネ派遣者報告』派遣された市内5中学15人の生徒の貴重な体験コメントと思い出の写真の数々。
第25号 1995/10/23	『市内の中学生、アメリカでホームステイを体験』。『生き生き日本語クラス』20数名の外国人生徒に16人のボランティア講師陣が日本語講座を開いている。	第35号 1999/3/11	『KIFA Party』1998年11月15日開催。参加者270名、うち外国人83名(国籍16カ国)。
第26号 1996/3/12	『KIFA Party 手をつなごう私達の地球のために』『N.Z. ワカタネ元市長 鎌ケ谷市訪問』。	第36号 1999/7/30	『鎌ケ谷市国際交流協会組織図及び会議』1999年度より、研修部会・交流部会・広報委員会の2部会1委員会制と運営委員会の充実活性化を図る。 『鎌ケ谷フィリピン・サークル設立』。
第27号 1996/7/15	『1995年度KIFA派遣団 N.Z.姉妹都市大会参加 お琴とお茶で親善交流』、『派遣者帰国報告』10人がいきいきレポート。	第37号 1999/11/1	『市民夏祭り“外国物産展”大盛況 トルコ大地震救援カンパご協力ありがとう』。KIFA『ホームページ公開! 今、世界にひろがる ふれあいネットワーク』。
第28号 1996/11/1	『ワカタネ市長と荒井会長の梨むき競争』。広報部員ミレーユ・秋元さん、イタリアへ転居のため5年の鎌ケ谷体験を英語で寄稿。この文の日本語翻訳募集。『市民国際理解講座 気軽に外国語で話そう!』。	第38号 2000/3/13	『興味深かった外国語で話す会』英語・中国語・スペイン語・ドイツ語・韓国語を母語とするパネリストが参加する外国語で話す会。
第29号 1997/3/14	『KIFA Party Opens Gracefully, Ends Friendly』この頃は1面見出しから、本文の随所に英文が掲載されている。 『KIFA会員募集』これも英文付きで会員になるメリットを列記。		
第30号 1997/7/10	『KIFA10周年&姉妹都市提携』。交流部会担当の『鎌倉バス旅行』外国人に配慮の全文ルビ付き。		



# 国際交流のあゆみ

『KIFA Plaza』は、前号をもって50号を迎えました。創刊号から16年後の今日までを回顧し、KIFAの足跡と業績を主な記事から前号に続いて紹介します。KIFAの未来へのさらなる飛躍を願いつつ、お読みください。(以下、文中の『 』内は、その号のタイトルそのものです。)

<p><b>第39号</b> 『緑と陽光あふれるKIFA茨城バスの旅』。2000/7/31 『親善を深めたワカタネ・ウエルカムパーティ』。</p>	<p><b>第49号</b> 2003年度合同閉講式『語学講座発表会・みんなの声』。『ひろがる日本語・通訳ボランティア活動』。 『KIFA家庭料理講習会 イタリア・中国料理』。</p>
<p><b>第40号</b> 『KIFA名誉会長・顧問・監事より一言メッセージ』(現在は名誉会長・顧問はいない)。『新三役を囲んでKIFA座談会』。</p>	<p><b>第50号</b> 『2004年度鎌ヶ谷市国際交流協会役員名簿』。『50号発行記念特集 KIFA Plazaで見る国際交流のあゆみ』。 『京劇へのいざないⅡ』。</p>
<p><b>第41号</b> 『交流部の紹介 2000年度の担当事業』、 『研修部会へようこそ 2000年度語学研修講座』。『出会いを通してアジアの食文化をまなぶ 2000年11月7日 東部小学校5年生』学校派遣の実績。</p>	<p><b>KIFA Plaza かわら版 ①</b> KIFA活動をタイミングよく会員にお知らせするため、KIFA Plazaかわら版を発行。 『市民夏祭りに参加 ミニ語学講座も開催』。『宋家の三姉妹 映画鑑賞のおしらせ』。 『ワカタネ成人派遣・日本庭園竣工式に出席』。</p>
<p><b>第42号</b> 『私も受けてみました・語学講座』6講座の講師の激励と受講生のやる気を紹介。投稿欄『南米6ヶ国にスケッチの旅 渡辺剛(学生)』マチュピチュ遺跡などのスケッチが印象的。</p>	<p><b>KIFA Plaza かわら版 ②</b> 『2003年 KIFA PARTY特集 14カ国49名の外国人を迎えて、楽しいパーティーを開催』。 『子ども英会話 スマイリーキッズの初体験』。</p>
<p><b>第43号</b> 『第5回ワカタネ親善訪問』。市制30周年記念式典で『鎌ヶ谷市国際交流協会に(市から)特別感謝状が贈られました』。</p>	<p><b>KIFA Plaza かわら版 ③</b> 『KIFAバスツアー 天候にもめげず箱根観光をみんなで楽しむ』。『沼南町国際交流協会の広報部員と交流』。</p>
<p><b>第44号</b> 『日本語ボランティアの今』見開き2頁の特集記事。講座誕生の由来、現在活動しているボランティアの声、受講生の感想などを掲載。</p>	<p><b>KIFA Plaza かわら版 ④</b> 『KIFA PARTY 2004 開催』外国人による日本語スピーチ「私の見た日本・鎌ヶ谷」。『外国文化に親しむ会 インドネシア・音楽とお話しと』。</p>
<p><b>第45号</b> 『新会長インタビュー』2002年度KIFA総会で第4代会長に岡本靖子さん就任。『語学講座オリエンテーション』。</p>	
<p><b>第46号</b> 『いばらき漫遊バスの旅』希望者163名から選ばれた90名が2台のバスで出発。投稿欄『パラリンピックをめざして 荻野晃一(鎌ヶ谷市在住)』。</p>	
<p><b>第47号</b> 『親子で英語に親しむ会』KIFA初の試み。小学2年生までの子供に絞り、15組の親子が参加。『米原万里講演会 ロシア人に学ぶ小咄の作り方』。</p>	
<p><b>第48号</b> 『京劇へのいざない 講演会・外国文化に親しむ会』。 KIFA初めての『青少年国際交流パーティで新たな出会い』各国の若者同士の文化交流。</p>	



## 青い海、白い帆。南半球の美しい港町。オークランド



アレシア・ブランド (鎌ヶ谷市ALT)

「小さい頃は、5歳上の兄と米国のプロレスをテレビでよく見ていました。少女時代はサッカーに夢中でした。日本でいう高校の部活のサッカーで、週に1~2回練習をした。ポジションはレフトウィング。ニュージーランドはラグビーの強豪国ですが、私は断然サッカー派よ」

昨年の8月に来日して6カ月。アレシアさんは、長身で元気はつらつのニュージーランド女性。現在は鎌ヶ谷市嘱託のALT (外国語指導助手) として五中、初富小、五本松小で生徒、児童に英語を教えている。

「オークランドで生まれ育ち、高校、大学を含め23年間いました。オークランドは世界一面積の広い都市で、人口はニュージーランド全体の約4分の1、約110万人です。なにしろ国内には人口5万人以上の市が10しかありませんから」

「緑の丘陵や青い海に恵まれた、美しい街です。ヨットのセーリングやカヤックなどマリンスポーツが盛んで、私もこの1月に帰国したとき遊んできました。湾内の港にはヨットがたくさん停泊しています。だからオークランドはニックネームで"City of Sails" (帆の町) と呼ばれています」

### 高校時代に少し日本語を習う

「鎌ヶ谷市の姉妹都市ワカタネにも2年前に行ったことがあります。ちょうど母がそこでマオリ族教育の講習に行っていたものですから。オークランドに比べれば小さい田舎の町ですが、美しい自然に恵まれた所でした」

「私の家族は6人家族です。デザイン関係の仕事をしている父、教師の母。31歳の姉は結婚してオランダにいます。29歳の兄は弁護士、弟はまだ16歳の高校生。子どものころから私は元気がありました。親に対して、いつも"No!"と反抗していました。束縛されない生き方が好きなので、父は私に、兄のように弁護士になりなさい、と勧めましたが、私は自分の好きな道を選びました」

オークランド大学でラテン語を専攻した。日本語は高校時代にちょっと習った程度。姉が日本に3年間在住したことがあり、その姉から「すべてにおいて面白い」と聞かされた。それで大学卒業後、オーストラリアやヨーロッパの旅行を経て来日。その時に話せる日本語は「こんにちは。ありがとうございます。いただきます。ごちそうさま。さよなら」くらいだったとか。

「鎌ヶ谷で子どもたちと学校で接していると楽しいですね。小学生はいつもベリー、ベリー、ベリー元気ね。」

Welcome to my home town !



アレシア・ブランドさん



高校生の弟と故郷で



ニュージーランド

若い私もアイム・タイヤードになる日もあります。中学生は、私に"ボーイフレンドいるの? どんな男性がタイプなの?"などと鋭い質問をしてくるわ」

### "ヤマンバ"にはカルチャーショック

「私が日本でもっともカルチャーショックを受けたのは、若い女の子のことで。電車内の公衆の面前で平気で化粧をしている。つけまつげをしたりね。さらにすごいのは"ヤマンバ"といわれる女の子。あれを見た一瞬は、ほんとに日本人? と疑いました。ベリーサプライズでした」

外国女性の感性で、日本の現在を鋭く観察しているアレシアさん。前述のサッカーのほか、音楽の趣味も多彩である。フルートを演奏する。ロックミュージックは新宿に生演奏を聴きに行くこともある。オールデイズではボブ・デュランのファン。カラオケでは、カーリー・サイモンやマドンナのナンバーを歌うという。「オークランドでも週末の夜は、ビーチでビアパーティをよくしていました。酒は強いほうですね」。もちろん日本酒もいけるそうだ。

「来年の8月まで日本にいるつもりです。その間に京都や広島、沖縄、北海道に旅行したい。新宿や渋谷はエキサイティングな所ですが、地方の豊かな自然と歴史、美しい風景もぜひ見たいものです」

「その後は、専門のラテン語を深めるために、イタリアのローマやポンペイに行きたい。古代文明に触れるとともに、私の大好きなピザパイを本場で思いきり食べられたら最高に幸せですね」

(インタビュー構成/K・H)



# 大連で市民レベルの旅を楽しむ

1月22日から24日まで2泊3日の日程で、冬の大連と旅順に出かけた。天津師範大学には鎌ヶ谷市在住の知人がおり、その方は天津日本語教師会の会長をされている。そこで昨年後半、この大学の招待所（宿舎）を拠点に北京、天津、大連、瀋陽からハルピンまでの中国東北地方一帯の一人旅を考えていたが、旅行日程の作成にもたまたましていたら、冬場になってしまい昨年の訪問はならなかった。

年も明けたある日のこと、新聞の旅の広告で格安ツアーが目にとまった。寒さ厳しい中での大連便はとにかく安い。すべての食事や交通費などを含めて39,800円也。極端な話、これだけで行き帰りができる。中国の通貨・人民元は前回訪問どきの残額が充分にある。これに若干の日本円を所持して出発した。

日航機に乗り込んでみたら、乗客は半分もいないではないか。冠雪した美しい富士を左手に見ながら日本列島を横断し、ソウルの南をかすめて大連へと向かった。大連は晴れ、気温マイナス4度からプラス3度とのアナウンスがあった。飛行時間は3時間20分、11時50分に到着すると直ぐに旅順へと向かった。ここで今回のツアー参加者が21人であることを知る。

たまたま出発日の前日に、NHKの『そのとき歴史が動いた』で日露戦争の特集を再放送していたため、旅順の様子や203高地の映像は記憶の中にあった。

ロシア軍の塹壕などは月日を経て浅くなっていたが、まさにちょうど100年前の1905年に日露戦争は終結したのである。ずいぶん古い歴史上の出来事とも思えたが、わずかな月日で世界は激変することを改めて知る。乃木希典大将とロシア軍の将軍ステッセルとの会見所は当時のままに残されている。2人が会見で相対したテーブルは負傷兵の手術台だったのだ。当時の医官の名前により直筆で具体的に記されている。

かつての砲台が残るそばには、日本軍人の鉄兜や陸海軍の制服制帽も展示されている。抜け目ない中国人によって戦地も観光地化されているが、その軍装をまとして記念写真撮る日本人がいることにはあきれて物もいえない。

大連市内は美しく整備され、ロシアや日本の租借当時の建物もそのまま残されており、異国情緒にあふれた街でもある。特に中山広場の周囲には旧ヤマトホテルや横浜正金銀行などが連なっている。

朝早くひとりで公園に向かった私は、大音響のスピーカーの伴奏とともに中国ディスコや太極拳に励む方たちを目にした。近所の人たちにまじり通勤途上の人も見かける。ここで、この音響設備を持ち込んでいる1人の中国人と知り合いになる。

彼は71歳というが若々しい。41年間毎朝7時か8時まで



朋友となった宗志龍さん



広場で踊る市民たち



上野駅を模した大連駅



中国銀行遼寧省分行  
(旧横浜正金銀行大連支店)

にここに来る。名刺には大連市中山音楽廣場主持とある。主持とは、主管者、主宰者の意味である。本職はどうも船の操縦士らしい。翌日また訪れたら、老朋友（古い友だち）と呼ばれた。私は「今年夏天我一定来大連（今年の夏、きっと大連にくるよ）」と告げて再会を約束した。

もう一つ面白いことをお知らせしましょうか。最近では日本でも偽札が横行しているが、中国はまさにニセ物天国である。有名ブランド品などは片っ端からコピー商品が作られてしまう。

大連駅のすぐ目の前、そのコピー商品のみを販売している店に連れていかれた。地下1階に入る入り口には鉄の門があり、階段を下りるとジャバラ状の密閉された厚いトビラがある。それを抜けると内部は立派な店になっていた。販売員のお姉さんは皆、日本語ペラペラである。ここではバッグから財布など、あらゆるものが陳列され売られている。我々が店を出たら2カ所のトビラは外から完全に錠がかけられてしまった。

旅行会社から渡された中国「旅の安心手帳」には、「コピー商品は輸入禁制品とされており、日本に持ち込んだ場合は税関から原則積戻するか、任意に放棄するかのどちらかの方法をとるよう命じられている」と書かれている。なのに、わざわざコピー商品販売の専門店に案内していくとは、どういうことか。目下この矛盾する事実に関して旅行会社に問い合わせしているところである。

いづれにしても、建前と現実が並存する国、それは中国が一段と飛躍するための一つの大きな通過点なのかも知れない。わが国の23倍の面積と10倍もの人口を有する中国は、ひと括りでは断定できない様々な問題点を包含していることは間違いないところだろう。これからも、いろいろな経験を重ねながら普通の市民レベルでの旅を楽しみたいものである。

(渡辺 千里)

## We did it

### 日本語「みかん狩り」旅行

校外学習にも収穫あり

みかん狩り  
を楽しむ



海を望む  
高台で昼食

日本語受講者と共に



小田原城

1月30日(日)に研修部・日本語講座バス旅行が行われた。この目的は「日本語講座の学習者の校外学習および研修部会員との親睦」である。行き先は、静岡県伊東市宇佐美でのみかん狩り。朝7時に参加者が次々と市役所前に集合、マイクロバスに乗り込む。

この日の参加者は、受講者がフィリピン、バングラディッシュ、スリランカ、中国など外国人14名、これに加えて日本人ボランティアと研修部員が8名で、計22名。

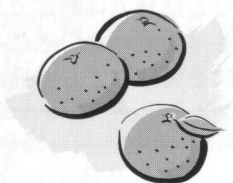
風は寒いが、冬晴れの好天気。首都高速に入って間もなく、富士山が視界の前方に入る。受講者から歓声が湧く。車内では、それぞれが各国語で「おはよう」の挨拶をする。また日本流の「じゃんけん」の方法が紹介される。次に「あいうえお」のカードを見て、正確に読めるかどうか「文字当てクイズ」。来日して時間の浅い受講者もいて、必死に考え、懸命に初歩的な日本語に取り組んでいる。

途中、小田原城を見学し、熱海の温泉街を抜け、宇佐美のみかん園に到着したのはお昼前。早速、鋏を手にして、みかん狩りに挑む。食べ放題だから、遠慮なくパクパク食べる。昼食は、参加者が知る船橋のインド料理店が見つかったドライカレー弁当。みんな、これもパクパク食べる。

帰路、東名高速道に行くバスの車内はカラオケボックスと化す。カラオケの歌詞を覚えるため、日本語の上達が早い受講者もいたようだ。バングラディッシュの人たちは、かなり歌が上手で、自作の歌をアカペラでエスニックムード一杯に歌う。

鎌ヶ谷市役所には、午後7時着。校外学習と親睦を兼ねたみかん狩り旅行は、受講者にもボランティアにも、それぞれに収穫があったようだ。

(K.H)



## KIFA行事のお知らせ

### お花見バーベキュー

日時：4月3日(日) AM11:00~PM2:00

場所：貝柄山公園

参加費：会員=100円 非会員=200円

持参するもの：食材・飲み物など各自持参

満開の桜の下で、バーベキュー・パーティを開きます。在住の外国人との楽しい交流をしませんか！

## 『KIFA Plaza』の編集に あなたも参加して みませんか！

KIFAでは、会報『KIFA Plaza』などの編集に携わる広報委員を募集しています。

以下の項目に一つでも該当する人、ぜひ気軽に参加し、自分を表現してみませんか！

- ①パソコンでホームページを作りたい人
- ②広報活動の企画・構成をやりたい人
- ③人物インタビューに興味ある人
- ④文章を書くのがとにかく好きな人
- ⑤写真撮影やイラストを描くのが好きな人
- ⑥集まってワイワイ話す機会を持ちたい人

あなたの得意の分野を活かす。未知の分野に挑戦する。年4回の会報『KIFA Plaza』をより充実したものにするため、広報委員へあなたの加入をお待ちしています。加入を希望される方は事務局にお申し出ください。

#### 【連絡先】

KIFA事務局 TEL: 047-445-1141 (内) 550  
FAX: 047-441-9400  
電子メール: office@kifa.gr.jp  
URL http://www.kifa.gr.jp

〔ただいま広報委員募集中〕

#### 編・集・後・記

KIFAの2004年度行事も主なものは全て終了した。広報活動の1年を振り返ると、まず広報責任者が変われば、紙面構成も編集方針も変化があって当然。紙面作成の前工程も電子編集化が進んでスピードアップされたが、課題はKIFA広報紙のマンネリ化を打破し、読者に喜んでもらえる紙面をいかに提供するかにある。改革に挑戦する広報委員を求む。

(S.K)